

公共施設マネジメント出前講座等開催について

(平成29年2月16日住民自治協議会理事会にて依頼)

1 出前講座

H27年9月～H28年7月 全32地区で出前講座を実施しました。
(公共施設の現状と課題、公共施設マネジメントの基本方針など総論を説明)

各地区から意見・要望等をいただきました (市ホームページに掲載)

今後は、出前講座第2弾として、各地区の施設に係る老朽化度、利用度、費用度にかかる定量分析結果、再配置シミュレーションなどのデータをお示しながら、各論の検討に進みたいと考えています。

- ・今年度策定する「長野市公共施設等総合管理計画」の概要(マネジメントの総論)及び各地区の公共施設の状況など(各論)について説明させていただく「出前講座」の開催をお願いします。
- ・平成29年度中に、全地区での開催を予定しています。
- ・主催は各地区「住民自治協議会」をお願いします。
- ・開催日程等については支所長を通じて調整させていただきます。
- ・開催時間は概ね30分以上で、できるだけ大勢の方に参加いただけるよう特段のご配慮をお願いしたいと考えております。(複数回でも可)

1

長野市公共施設等総合管理計画の概要

基本理念

将来世代に負担を先送りすることなく、より良い資産を次世代に引き継いでいく

基本方針1 『施設総量の縮減と適正配置の実現』

- (1) 施設総量の縮減 (2) 新規整備の抑制 (3) 施設の複合化・多機能化の推進
(4) 地域特性等を踏まえた施設配置 (5) 広域的な連携

基本方針2 『計画的な保全による長寿命化の推進』

- (1) ライフサイクルコストの縮減 (2) 長寿命化基本方針の策定 (3) 施設点検マニュアルの策定 (4) 耐震化の推進 (5) 仮称) 公共施設等総合管理基金の創設

基本方針3 『効果的・効率的な管理運営と資産活用』

- (1) 施設利用の促進 (2) 管理運営の効率化 (3) 受益者負担の適正化
(4) 遊休施設等の積極的な利活用

基本方針4 『全庁的な公共施設マネジメントの推進』

- (1) 庁内推進体制の強化 (2) 財政との連動 (3) 施設情報の一元化
(4) 職員意識改革の推進

【公共施設再配置計画 (第一次)】

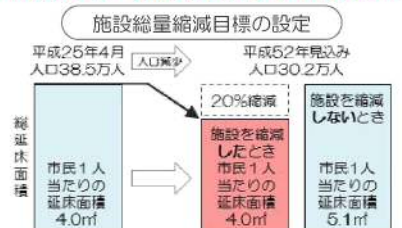
- ・施設分類別の具体的な検討の方向性、及び、既に決定している個別施設に係る計画の概要を示す。
- ・計画策定時において、個別施設に関する計画の検討が進んでいない施設についても検討を進めて、随時計画に加える。

【市民合意形成に向けた取組】

- ・モデル地区の取組などを踏まえ、利用者の範囲や地域の状況などから、市民合意形成手法を検討しながら、施設の性質に応じた再配置を進める。
- ・公共施設の現状や課題について市民と情報を共有し、共通認識に立つため、様々な機会を捉えて積極的に情報発信を行う。

基本方針1(1)

「縮減目標=延床面積20年で20%縮減」



基本方針1(3)

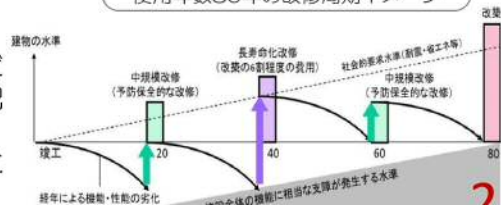
「小中学校を地域の核として複合化」



基本方針2(2)

「事後保全から計画的な予防保全へ」

使用年数80年の改修周期イメージ



2

2 市民ワークショップ

- ・昨年、芋井地区で開催した、市民ワークショップについて、他の地区でも市民と行政が公共施設について一緒に考えるワークショップを開催したいと考えています。
- ・今後3年程度で、全地区で開催したいと考えていますので、住民自治協議会の協力をお願いします。

《ワークショップのねらい》

公共施設見直しの計画策定前の段階から、市民の皆さまと市と一緒に検討する、地域の公共施設に関する試みです。

人口減少時代の中、地域の賑わいや、活力あるまちづくりにつながる施設の集約化、多世代交流の促進を生み出す複合化・多機能化など、様々な意見を自由に出し合ってもらい、提案やご意見を整理し、地域の公共施設再配置検討のたたき台にしたいと考えています。

なお、ワークショップで対象施設の整備方法や存続廃止を決定するものではありません。

- ～ワークショップとは「創造的な協働作業」を意味する言葉です～
- ◇参加者が全員で一緒に考えながら、協働作業で提案やプランを作り上げていきます
 - ◇リラックスした雰囲気、自由に、気軽に意見を出し合い、それらに触発されて新しいアイデアが次々に生まれていくプロセスに特長があるとされています
 - ◇参加者のさまざまな思いやニーズ、ノウハウ等を引き出して、提案に生かしていく作業です

(1) 芋井モデル地区の経過等

2 市民ワークショップ

期日	概要
平成27年10月22日	芋井自治協マネジメント出前講座（総論の説明）
11月6日	芋井自治協打合せ（モデル地区協力を依頼）
12月7日	コンサル・アドバイザーと自治協顔合わせ、現地視察
平成28年2月24日	コンサル・アドバイザーと自治協打合せ
4月5日	副市長 現地視察
5月13日	市議会特別委員会 現地視察
5月20日	公共施設適正化検討委員会 現地視察
5月21日	第1回 ワークショップ
6月4日	第2回 ワークショップ
6月11日	第3回 ワークショップ
6月20日	自治協 行政管理課打合せ
7月2日	第4回 ワークショップ
7月26日	自治協 行政管理課打合せ（地元検討委員会設置を依頼）
10月28日	第1回 芋井地区公共施設整備検討委員会
11月14日	公共施設マネジメント推進検討会議 芋井地区専門部会
12月17日	第2回 芋井地区公共施設整備検討委員会
平成29年1月30日	公共施設マネジメント推進検討会議 芋井地区専門部会
2月21日	第3回 芋井地区公共施設整備検討委員会

地区内チラシ
報道投込等
回覧
広報

(2) 芋井地区の例 ～グループ討議の進め方～

2 市民ワークショップ

・事前に資料をメンバーへ配布しました(マネジメントの総論を理解いただくため)

第一回

- ・オリエンテーション
- ・グループ討議 ①
- 【テーマ: 地区の将来、こんな地区をつくりたい～アイデア・提案】
- ・グループ意見発表
(地区外メンバーの現地施設視察)

第二回

- ・前回の振り返り
- ・グループ討議 ②
- 【テーマ: 公共施設でしたいこと～したいことのために施設をどう利用するか】
- ・グループ意見発表

第三回

- ・前回の振り返り
- ・グループ討議 ③
- 【テーマ: 運用面からみた、将来の公共施設再配置のかたち～
私たちにもできること、施設を減らすとしたら、どこが減らせるか】
- ・グループ意見発表

第四回

- ・グループ討議 ④
- 【テーマ: 私たちが考える、地区の公共施設再配置案】
- ・グループ意見発表



提案

検討のたたき台
(事務局案等)の提示

5

(3) 芋井地区の例～ワークショップメンバー～

2 市民ワークショップ

- ・できるだけ幅広い年齢・性別・職業のメンバーを確保するようお願いします。
- ・また、地元のリーダー等「キーパーソン」をはずさないように配慮いただきました。

70代中心

- ・施設建設に携わった方や、地区の役員OBなど、人生の先輩の皆さん

60代中心

- ・住民自治協議会の役員、民生委員、公民館長など、地域のリーダーの皆さん

40・50代

- ・自営業、PTAの役員、きらめき隊員など、働き盛りのお父さん・お母さん

30代中心

- ・保育園の保護者、育成会の役員など、子育て中の皆さんと、地域おこし協力隊員

20代

- ・大学生、あるいは他地区市民など

- ・1グループ5～6名、5～6グループ(計30名程度)を目安にしました。
- ・ワークショップは公開で、当日、飛び入りでの参加もいただきました。
- ・アドバイザーからは、施設管理者の参加や、小学生・中学生によるグループを作ることも可能と助言をいただいています。

年代別グループ分けの例

6

(4) 芋井地区 写真 ①



7

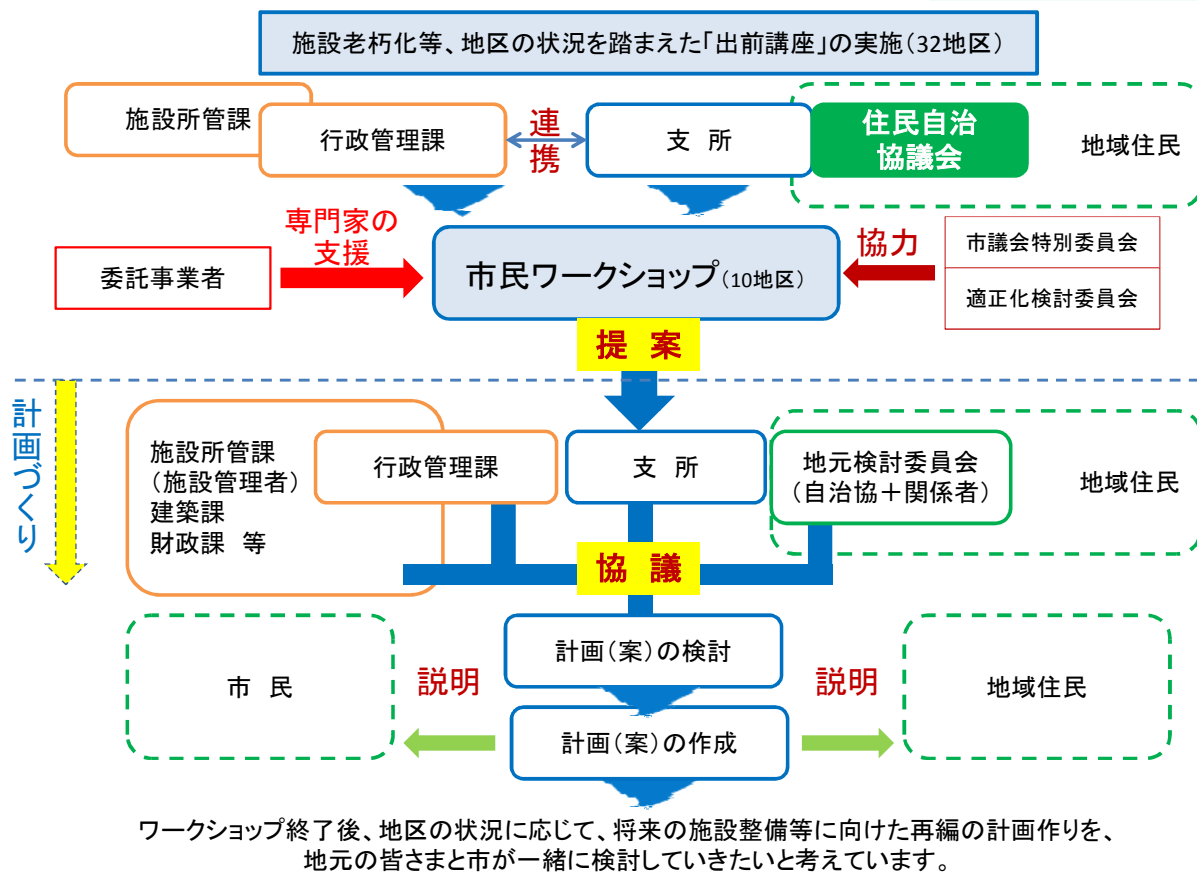
(4) 芋井地区 写真②



8

(5) 市民ワークショップから計画づくりへ

2 市民ワークショップ



9

(6) 市民ワークショップ開催への協力

平成29年2月16日
自治協理事会 資料

市民ワークショップ

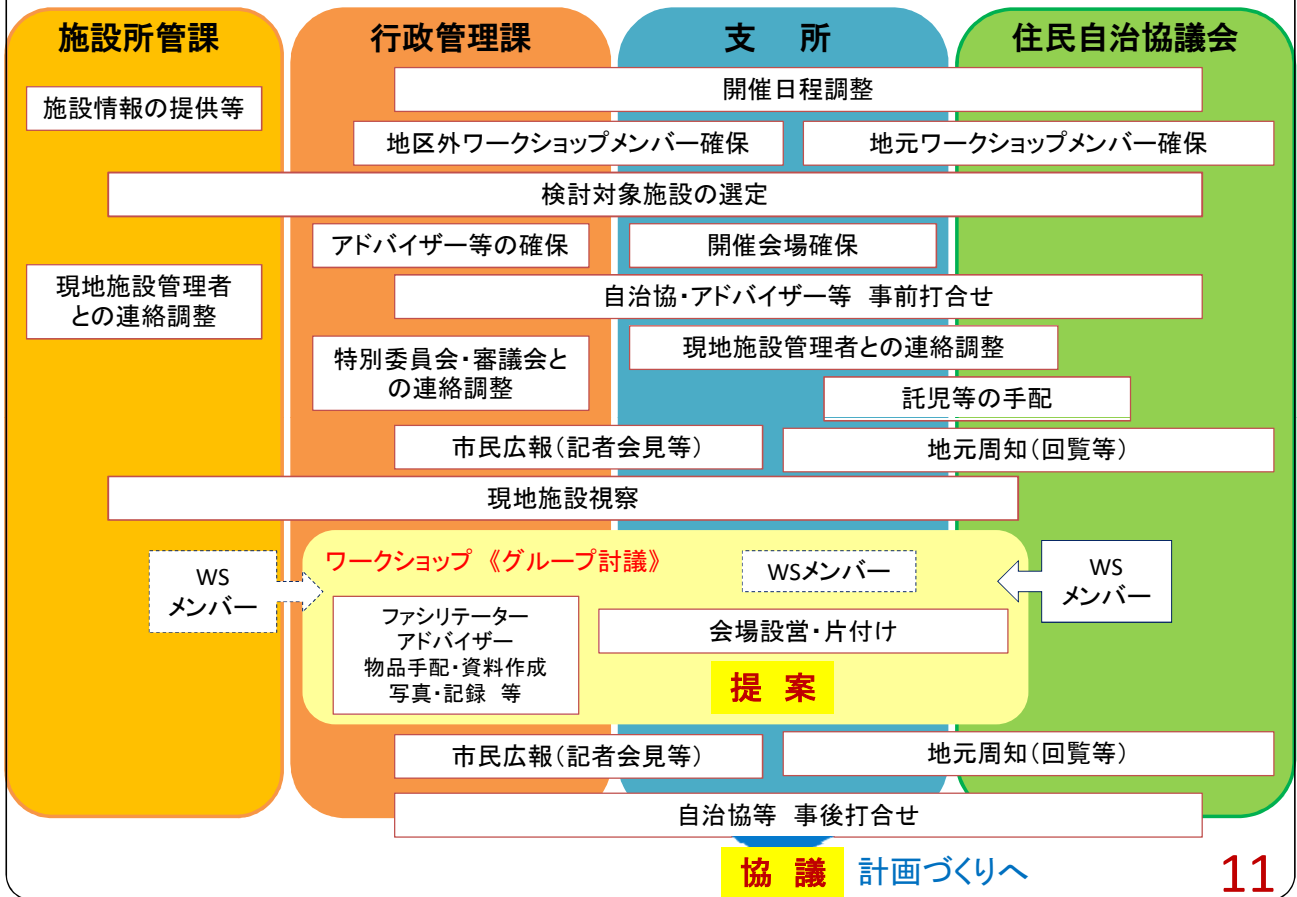
- ・主催は「長野市」です。
- ・支所と行政管理課が中心になり、「住民自治協議会」の協力をいただき、開催したいと考えています。
- ・開催時期等については、支所長を通じて調整させていただきます。
- ・自治協に協力をお願いする主な事項は、
 - ① ワークショップメンバーの人選・確保
 - ② 開催日程・場所の調整
 - ③ 地元周知チラシの地区内回覧
 - ④ 検討対象とする施設の検討
 - ⑤ ファシリテーター(司会者)、アドバイザー(助言者)との打合せ 等になります。
- ・特に協力いただきたいのは①です

〇様々な地域住民の声を提案に反映させるため、自治協の役員だけでなく、年代、性別、職業など幅広い層から、ワークショップメンバーの人選をいただくこと

詳細については地区ごとに相談させていただきます。

10

<参考> 市民ワークショップ開催の流れ



<参考> 施設再編の方向性と市民合意形成の手法

